

市民意識調査結果を報告します

平成23年度に策定した「湖南市男女共同参画アクション2007計画」が今年度で最終年度を迎え、平成29年度からの次期計画の策定に着手しているところです。これに先立ち市民の現状や意見を聴くために実施したアンケートの結果をお知らせします。なお、詳細は市ホームページへ掲載します。

問 自分の家庭の理想は「夫が外で働き、妻が家を守る」ことである、という意見についてどう思いますか(1つ選択)

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた割合は、女性で37.8%、男性で47.6%でした。

問 家庭の仕事(ア)について、現実には、主に誰の役割となつていきますか(それぞれ1つ選択)

ほとんどの項目で「妻(女性の同居人)」が最も多く、女性に負担が集中していることがわかります。同様に理想の姿を尋ねた質問では多くの項目で「家族全員で分担」が最も多く、理想と現実の間に大きな開きがあります。

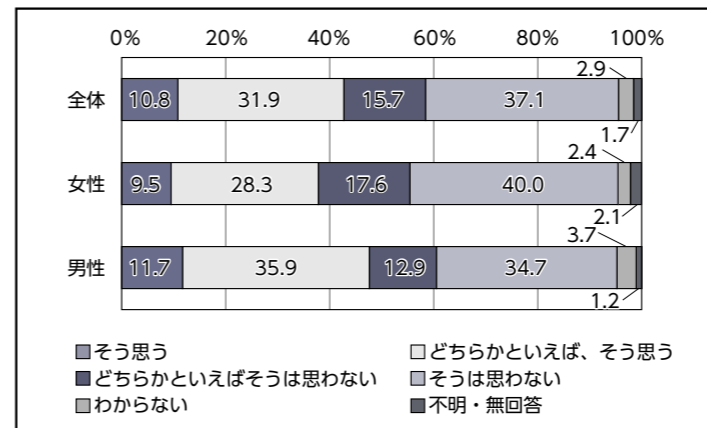
問 あなたは仕事の内容や待遇面で、女性は男性に比べ、不当に格差があると思いますか(1つ選択)

「格差があると思う」と答えた人は、女性で48.1%、男性で42.0%でした。前回の調査(平成23年)と比べると、「とくに格差があるとは思わない」が大きく減少しています。その反面、「わからない」が16.0ポイント増加しています。

調査の概要

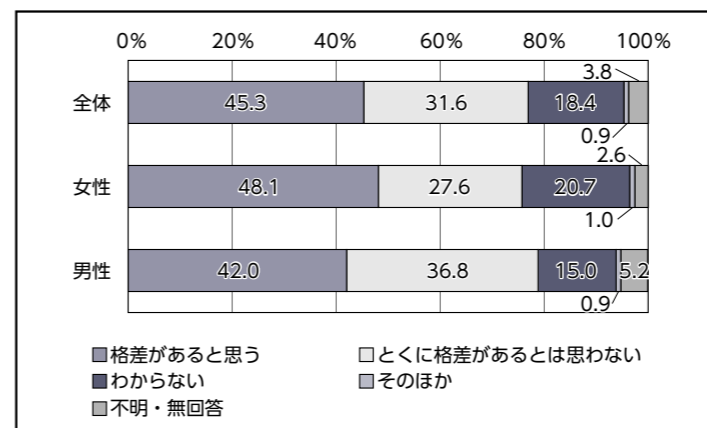
対象	市内在住の20歳以上2,000人を無作為抽出
期間	平成27年11月17日～12月2日
方法	郵送による配付・回収
回収数	766(778)※
回収率	38.3%(38.9%)※

※()内は無効票を含む数値



(%)

	ア 食事のしたく	イ 食事の後かたづけ	ウ そろじ	エ せんたく	オ 家計の管理	カ 日常の買い物	キ 生活費をかせぐ	ク 育児(乳幼児の世話)	ケ こどもの世話	コ 自治会・町内会活動	サ 高齢者や病人の世話
妻(女性の同居人)	73.2	60.4	57.4	70.4	63.6	61.5	4.0	54.2	47.3	16.6	35.8
夫(男性の同居人)	2.6	5.6	5.5	3.5	15.0	3.9	58.2	0.7	4.2	43.6	2.0
子ども	0.5	1.0	0.8	0.5	0.1	0.7	1.0	0.0	0.5	0.1	0.3
家族全員で分担	8.1	18.9	22.3	10.4	4.7	20.2	19.2	12.7	18.0	20.0	27.4
父	0.3	0.1	0.4	0.1	1.2	0.1	5.5	0.0	1.0	5.6	0.3
母	11.7	9.1	9.1	11.2	10.3	8.6	0.9	7.0	6.1	4.6	5.5
そのほか	1.7	2.6	2.2	2.0	3.0	2.6	7.4	15.0	14.0	6.5	20.0
不明・無回答	1.8	2.1	2.2	1.8	2.1	2.3	3.7	10.4	8.9	3.0	8.9



調査の結果からわかる特徴的な傾向

- 男女共同参画を進めていくことに、男女とも85%近い人が「賛成」または「どちらかといえば賛成」と答えている。
- 様々な場面で女性より男性が優遇されていると感じている人が、男女ともに多い(特に習慣やしきたりなどの面で)。
- 男女の役割に関する固定的な考えが依然、根深くある。
- 家事や育児、介護などに対する男性の参加意識が低く、女性に負担が集中している。
- 女性の就業環境が厳しくなっている。
- 育児休業や介護休業などを取得しにくい状況がある。
- 勤務時間短縮や柔軟な勤務体制など、ワーク・ライフ・バランスの推進がまだ不十分。
- 男性も含めDV(ドメスティックバイオレンス)男女間の肉体的・精神的暴力)の被害が依然少なくない。

男女共同参画社会とは

全ての個人が、喜びも責任も分かち合い、男性も女性も性別にとらわれず、その能力・個性を十分発揮することができる社会のことです。

人権シリーズ

6月23日(木)～29日(水)は「男女共同参画週間」です

昨年12月に、国は第4次男女共同参画基本計画を閣議決定しました。また、4月1日からは「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)」も全面施行されました。個人、家庭、地域、職場などあらゆる場面で、「女は損」「男は我慢」などと性別を理由に諦めることなく、個々の能力を活かし、生き生きと暮らせる社会づくりに向けた法整備が進められています。

市では、今年3月に湖南市で初めてとなる企業・事業所向けの男女共同参画研修を実施しました。この場で、市長はイクボス宣言をし、「これからイクボスを増やすため企業に向けても積極的な働きかけを行っていく。市役所もワーク・ライフ・バランスが実現できるように、働き方を変えていかなければならない」とイクボスとしての抱負を述べまし

またこれに関連して、市の幹部職員向けにイクボス研修も行いました。多様なライフスタイルを尊重すること、時間に対するコスト感覚を身につけることなど、働き方の改善について認識を深め、研修後には副市長以下幹部職員56人がイクボスを宣言しました。



▲イクボス宣言をする市幹部職員

少子化で労働人口が減りつつあるなか、子育て世代の出産・育児時の離職や40～50代の介護での離職者をどうやって防ぐかという問題は身近に迫った問題です。女性が働きやすくなれば働き手が増え、男性にばかりが

す。男性が早く家庭に帰れるようになれば、今まで女性にのしかかっていた家事の負担を減らすこともできます。喜びもしんどさも半分こにしませんか。

用語解説

イクボス

職場で共に働く部下・スタッフのワーク・ライフ・バランスを考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司のことをいいます。

ワーク・ライフ・バランス

仕事と生活の調和。老若男女誰もが、仕事、家庭生活、地域活動、個人の自己啓発など、様々な活動について、自ら希望するバランスで行える状態をいいます。

《今月は、人権擁護課が担当しました》